



意志のある所には道は開ける

全国消防長会危険物委員会委員長
川崎市消防局長
望月 廣太郎



令和6年1月1日、石川県能登半島において震度7の大地震が発生しました。お亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、復興への歩みを進めている皆様の勇気と芯の強さに心から敬意を表します。

災害は、私たちに警告することなく突然襲い掛かってきます。我々消防機関は、こうした災害から国民の生命及び財産を守るとともに、被害の軽減に迅速・的確に対処していく責務があります。今後も大規模な災害への対策として、消防広域体制の充実・強化、消防活動能力の更なる向上に向けて、全力を挙げて邁進して参ります。

さて、能登半島地域における危険物施設に着目すると、多数の施設で被害が発生したことは報告されておりますが、震度7の地震にもかかわらず、甚大な被害となったものは、未だ聞き及んでおりません。これは、各事業者が日ごろから防災に対して高い意識を持ち、危険物製造所等の点検・補修に対して努力を惜しまなかった結果だと考えています。「雨だれ石を穿つ」ということわざがありますが、大規模な自然災害への対策には、日々の地道な努力を積み重ねることが一番大切であることが証明されました。

現在、国では、依然として高い水準で推移している危険物事故や少子化による人口減少、人材不足などによる経済的構造の変化に対応するため、IoTやAIなどの新技術で保安業務の安全性・効率性を高める、いわゆる「スマート保安」の取り組みが進められています。このスマート保安の推進により、危険物施設の微細な異常検知や広範囲・高頻度の点検等が行われ、事故防止につながることが期待されております。

しかし、先進技術のスマート保安を取り入れたとしても、これらの機器を取り扱うのはあくまでも「人」であります。この人が、志を高くし、災害から自分たちの施設を守る気持ち、日ごろから点検等により、事故を起こさないという熱い情熱を持たなければ、先進技術のスマート保安も絵に描いた餅になってしまうのではないのでしょうか。

我々消防職員も、社会の情勢の変化に対応し、組織を発展させながらも、今まで培ってきた先人達の知識と技術、そして信頼を継承し、国民に対して常に安心と安全を提供するという崇高な目標を持ち、スマート保安を駆使することで、危険物行政の保安がより発展していくと思えます。

近年の危険物行政は、毎年のように発生する自然災害への対策が急務であり、また、スマート保安との融合で課題が生じることが予想されております。全国消防長会危険物委員会では、これらの諸課題を解決するために、全国の消防本部や国と一層連携を強化し、あらゆる場面で意見交換と情報共有を活発化させていく所存でございますので、引き続き皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。